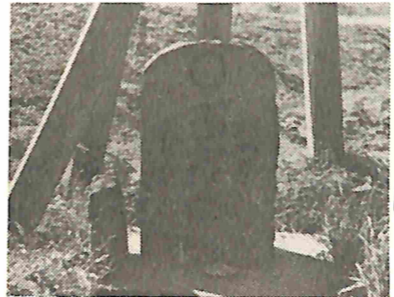


⑩のその二

参道
右側

⑩のその一
□□十二年
久那斗神
八月十五日村中



⑩のその三

参道
左側

⑩のその二
明治十二年
八巷北洋神
八月十五日村中



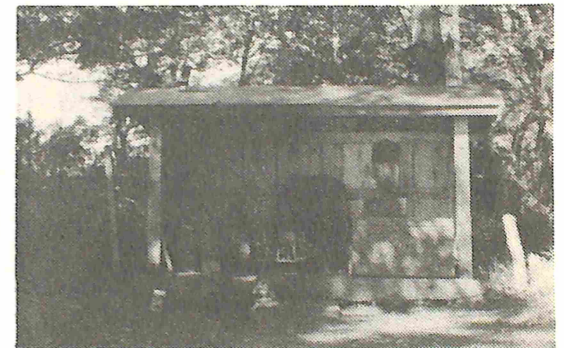
⑩のその四

裏面
記載なし。

⑩のその四
明治卅一年
二十三夜塚
五月二十三日
発起人 鳴海□□□

⑩のその三
昭和五十九年
百万遍
四月二十五日

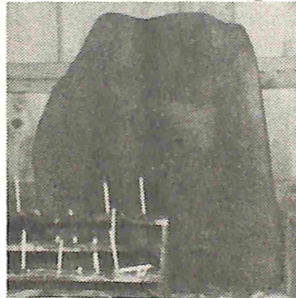
裏面記載
下古町、上古町、後町講中一同



⑩のその五の二
その五の三
その五の四



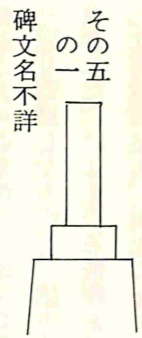
⑩のその五の三



その五の二



その五の三



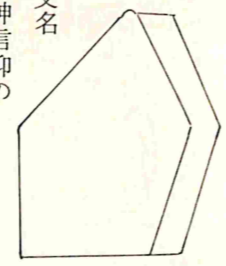
その五の四

その五の二
裏面
記載なし。

その五の二
明治三十一年
庚申塚
五月八日 古町講中

参道左側 その五

その五の三
注||碑文名
なし、石神信仰の
本体らしい。



その五の三



その五の四

注||風化甚

ただし、観音像らしきも、山の神
像らしきところもある。

× × × × ×

地域内の庶民信仰に係る石塔群
である百万遍塔その他をまとめて
みると、

百万遍塔七基、庚申塔四基、甲
子塔二基、二十三夜塔四基、七面
大天女一基、大黒尊天一基、大乗
妙界一基、久那斗神一基、八巷北
神一基、帝釈天王一基、摩利支尊
天一基、七面大妙神一基、山神一
基の、私の調べた限りでは二四基

で、その他石塔に碑文名の刻され
ないものが四基ある。

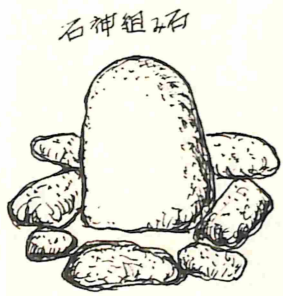
古いものは、大乗妙界塔の安永
庚子九年（西暦一七八〇年）のも
ので、一番新しいのが八幡宮境内
にある昭和五十年の百万遍塔であ
り、そのほとんどは明治年代に建
てられ、百万遍塔、庚申塔が多い。

また、保食宮境内通称馬頭観音
にある、⑦の2写真の無碑名の石
塔は、風化甚だしく見るかげもな
いが、この地内には、天明二、三年
の大飢饉に餓死した、私達の祖先
を葬った『いごぐ穴』のあるところ
から、私は、おそらく供養塔と
してたてた石塔と推測している。
この石は『いごぐ穴』跡に移設し
たいものである。

上鍛冶町磯崎宮境内にある大乗
妙界塔は、嘉瀬の旧家鳴海勲氏の
祖先が、本山参詣に諸国を廻り、
無事帰郷したことを、佛の加護に
よるものとし、家運安泰、村泰平
を祈願してたてたものとされます。

この石塔は、建立年代からみて
安永九年は、天明の大飢饉より二
年前であり、この石塔は、天明の
惨状地獄絵を見てきたことになる。
この安永九年の石塔の左側にあ
る本文⑨の2の石神は、鎌田稲辰
氏の語るところによると、昭和五
六年六月一日発行の『かたりべ誌』
『なぞの組み石?』の中央に立っ
ていたものと言う。

ともあれ、この石神は、私達ふ
るさとの古代人の石神信仰の原点
の石とみたい。



踏 査 取 材
きのした清一

寄進物石造明細

嘉瀬の氏神である八幡宮に、旧正月元旦の日に、
 献納物と称して、石造物を雪櫃に乗せ、紅白の大
 鏡餅とお神酒を供へ、獅子舞の先頭で各町内をね
 り廻り寄進したもので、講中または町内ごとに寄
 進された。いまその石造物を見ると、石に刻ら
 れた寄進者名も、風化にともなって、判読し難く
 なってきたものもあり、いまのうちにと、その寄
 進者名を記しておく。

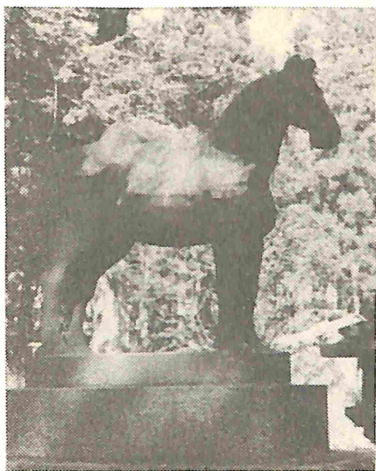
(調査者 沢田薫、須崎正敏、秋元惣之進)

①の1 石造物神馬

昭和二十九年旧一月一日
 奉納

発起人

今 卯作、土岐粕五郎、
 鳴海万次郎、平川久四郎、
 沢田與三郎、木立瀨塔、鳴
 海清作、舛甚半四郎、黒川
 常與、鳴海豊吉、平川由八、



外村一同

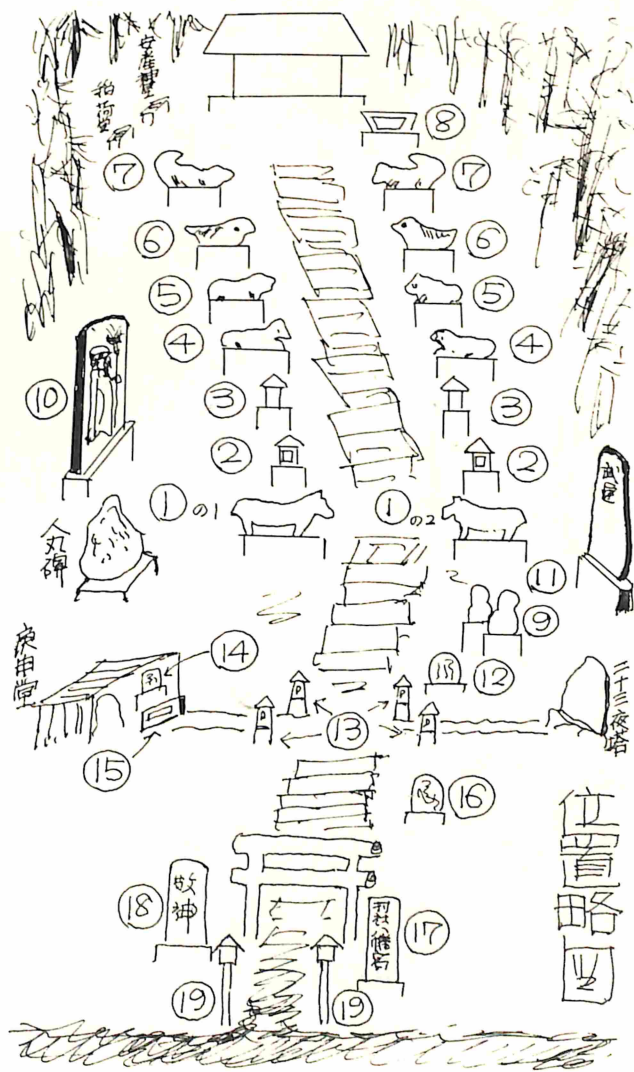
①の2 石造物神馬

昭和十年旧一月一日 奉納

石造馬献上者記名石塔

表面 鳴海勇助、工藤要之助、吉崎又四郎、松川清蔵、今寅吉、坂本
 米作、鎌田松五郎、木下銀作、鳴海太郎、浜田沢吉、木下熊市、神島嘉
 吉、工藤清次郎、伊丸岡茂作、神島安五郎、山中英正、蛸島一、山中
 勇四郎、工藤清助、鎌田善七、鳴海常三郎、榎引繁吉、伊藤満之、今兼
 次郎、吉崎熊吉、工藤松太郎、三上保作、今与四郎、今喜代作、土岐惣
 七、浜田由吉、花田松五郎、工藤兼五郎、工藤保次郎、榎引七郎、榎引
 藤吉郎、今兵作、山中男茶、花田甚助、鳴海忠蔵、榎引三之、山中已之
 助、蛸島末太郎、鳴海武太郎、浜田重市、山中勇次郎、金沢岩五郎、秋
 元寅次郎、榎引辰五郎、吉崎由雄、山中辰義、沢田竹次郎、沢田豊作、
 白川万四郎、山中勇九郎、工藤弥八郎、浜田唯八、加藤勇二、飯塚力雄、
 今常五郎、内海勘四郎、鳴海永八、蛸島茂作、榎引嘉助、内海勘之作、
 岩村九郎、秋村米作、吉崎金作、蛸島繁太郎、阿部仁八郎、内海男治、
 工藤多一郎、花田柁八、松川万四郎、原田勇太、鳴海亀蔵、斉藤伝太、
 広瀬与之助、山中寅五郎、伊藤弥八郎、伊藤林次郎、沢田兼吉、今豊五
 郎、今浅五郎。

裏面 発起人 齊藤永八、木立久五郎、榎引藤之助、工藤市三郎、吉
 崎勇四郎、工藤弥一郎、今春吉、山中三十郎、浜田与一郎、中村長作、
 中野満助、浜田常五郎、三上太郎、山中哲男、浜田由雄、長内松三郎

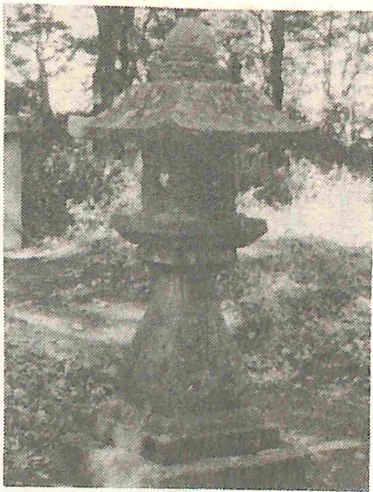


木立忠、鳴海為之助、白崎秀一、平川由雄、鳴海亀太郎、内海市太郎、
 鳴海辰太郎、吉崎民次郎、鳴海勝教、神島鉄雄、鎌田稲辰、秋元惣五郎、
 須崎豊作、秋元卯之助、沢田定義、浜田常五郎、土岐安五郎、山中満衛、
 山中松茂、神島三吾、小松利雄、斉藤善太郎、土岐忠雄、土岐武一、斉
 藤繁雄、鳴海律雄、今 嘉七、山中徳三郎、秋村粕太郎、古川平内、榎
 引米次郎、津田孫一、木村勇助、秋元男茶、須崎武男、斉藤亀男、平川
 久工門、成田善蔵、鳴海藤雄、須崎由次郎、工藤林蔵、鈴木万次郎、土
 岐善五郎、金沢岩五郎、今 與之助、浜田よね、浜田由雄、鳴海勇治、
 鳴海要吉、山中源太郎、木村松太郎、沢田幸八郎、今 由太郎、神島弥
 太郎、黒川八五郎、神 多作、原田 稔、神島専造、伊丸岡金保。

② 石造物御神燈二基

明治九年九月十五日

嘉瀬村 村中



③ 石造物御神燈二基

奉納年代不詳



④ 石造物唐獅子二基

○ 藤市五郎、間山安左衛門、木村治兵衛、内海勘助、小山内勘四郎、
 今久作、高橋直吉、広瀬傳四郎、中村佐太郎、工藤弥治郎、鳴海三十郎、

浜田反治郎、浜田半次郎、
鳴海八九郎、山中藤吉、三
上沢吉、中村長治郎、土岐
文作、岩村吉之丞、広津惣
助

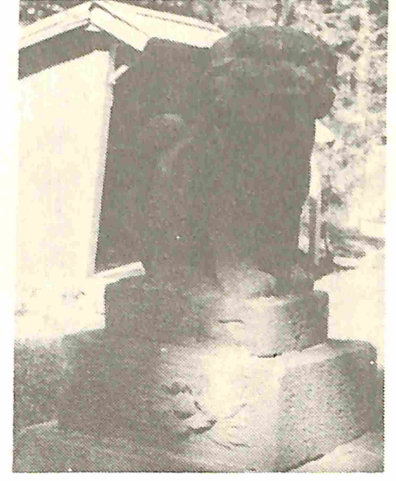
⑤ 石造物唐獅子二基

大正七年一月元日

発起人 冷古道若者連中

寄附人 工藤林蔵、山中
才七、山中宇次郎、広瀬与
作、岩村兵三郎、秋村○吉、
小山内権五郎、山中喜一郎、
阿部佐之、山中男次、山中
安次郎、土岐辰五郎、内海
勘之丈、鎌田直作、山中賢作、鎌田松五郎、花田甚作、山中惣助、鳴海
稲太郎、沢田千代吉。

花田松次郎、斉藤勇太郎、今幸作、今子之助、山中酉蔵、浜田兼吉、
阿部仁八郎、櫛引末太郎、山中藤助、沢田藤太郎、山中辰之助、鎌田藤
之、鳴海玉太郎、古川勇之、今末太、原田万助、沢田長作、沢田木八郎、
須崎茂吉。

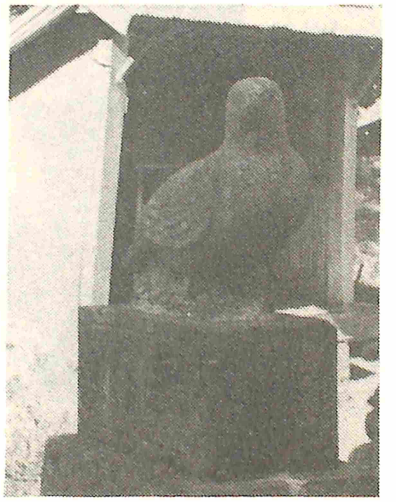


⑥ 石造物鳩二基

大正四年正月元日 奉納

嘉瀬村派立町中

山中兼蔵、鳴海律太郎、
吉崎男治、鳴海常三郎、浜
田宇三郎、工藤市五郎、工
藤松太郎、沢田竹次郎、櫛
引藤吉郎、山中専九郎、山
中峯五郎、中村佐市、沢田
豊五郎、鳴海忠作、飯塚常雄、高杉宇八郎、花田甚作、岩村九郎、鎌田
清三郎、内海勘四郎、神島安次。
工藤清助、白川万四郎、浜田与一郎、間山要八、今清太郎、宮越寅吉、
浜田由之助、今小次郎、鳴海米吉、鳴海忠蔵、工藤弥一郎、鳴海辰五郎、
櫛引七郎、浜田熊吉、神島要之助、蛸島茂作。



⑦ 石造物獅子二基

昭和二十九年 奉納

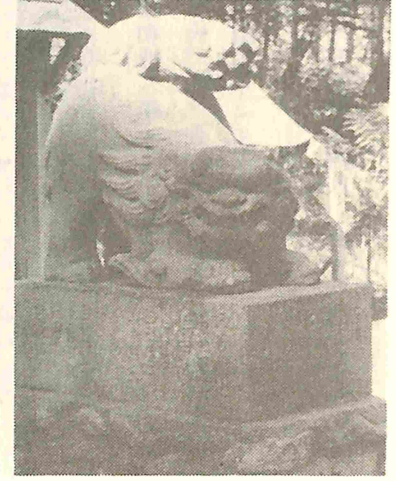
発起人

千円 内海精蔵、工藤多一郎、平川信長、工藤要之助、野呂きわ、内
海勘作、八百円 鳴海惣五郎、五百円 阿部重造、今安美、広瀬与一郎
三百円 原田万之七、浜田ヨネ、今正光、山中哲男、山中市太郎、今
久男、蛸島末太郎、白川権五郎、沢田竹次郎、鎌田武智、秋元万作、白
川権由、沢田兼八、斉藤伝太、吉崎専四郎、神島安五郎、蛸島繁一、鳴

海久男、三上兼五郎、原田
万之八、今清作、浜田由雄、
櫛引藤之助、工藤賢治、浜
田常五郎、櫛引正衛、山中
文雄、浜田誠治、相馬江津
雄。

寄進者 千五百円 鎌田
善七、千円 岩村兼太郎、

浜田熊吉、伊藤正巳、三百円 岩村定雄、阿部金治、黒瀧粕太郎、花田
永助、中村長作、鳴海兼雄、吉崎万次郎、相馬貞造、浜田沢吉、三上太
郎、工藤弥一郎、荒谷勝信、木下無市、木立久一、斉藤亀吉、山中寅五
郎、広瀬正光、今権与四、内海嘉七、今金四郎、山中誠治、松川松雄、
鳴海芳雄、沢田国貞、櫛引繁雄、蛸島一、山中専四郎、秋村米作、岩
村兼五郎、伊丸岡金保、今浅五郎、神島嘉吉、櫛引嘉七郎。



⑧ 石造物手洗石

大正八年正月奉納 鍛冶町

発起人 神島万之、山中
徳太郎。

有志者 小松定五郎、木
下千代吉、鳴海与作、山中
與吉、鳴海惣五郎、木下嘉
七、山中長兵工、今久太郎、
沢田兼太郎、木下三郎、山



⑨ 石造物大黒恵比須像二基

大黒恵比須寄進者名石塔

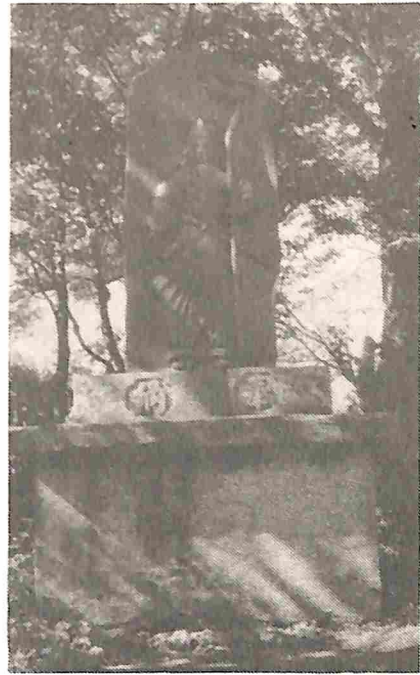
表面 壹千円 岩村兼太郎、

浜田君春、伊藤正巳、吉崎万
次郎、八百円 鳴海惣九郎、
五百円 神島豊五郎、四百円
黒瀧粕太郎、花田永助、阿
部金治、三百円 野呂清春、
工藤弥一郎、荒谷勝信、秋村
米作、岩村兼五郎、櫛引嘉七
郎、森ヤサ、田中操、沢田国
貞、三百円 山中寅五郎、広
瀬與一郎、広瀬正光、今権與
四、内海嘉七、今金四郎、山
中誠次、櫛引繁吉、鎌田善七、
山中専四郎、松川松男、蛸島
一一、今安美、神島嘉吉、長
内武則、伊丸岡兼保、今浅五
郎、木下熊市、三上太郎、浜
田沢吉、斉藤亀吉、飯塚力雄、今常五郎、木立久一、原田万之七、浜田



ヨネ、今正光、櫛引正衛、山中哲雄、山中市太郎、今久男、蛸島末太郎、
 沢田竹次郎、鎌田武智、金沢岩五郎、秋元万作、白川柱由、沢田兼八、
 工藤清治、中村長作、鳴海兼雄、阿部重造、蛸島寅五郎。
 裏面 老千円 内海清蔵、木村金利、内海勘之作、鳴海久男、六百円
 今清作、櫛引藤之助、原田万之八、工藤賢治、蛸島繁一、三上兼次郎、
 浜田常五郎、浜田由雄、神島安五郎、工藤要之助、齊藤伝太、浜田誠治、
 工藤多一郎、平川信長、相馬江津雄、山中文雄、吉崎専四郎、老千円 野呂キヲ。

⑩ 神武天皇像石塔



裏面 皇紀二千六百年祈願 昭和拾五年一月元日建立
 発起人 平川久四郎、沢田三長、山中金作、沢田与三郎、白取弥作、
 沢田与八、今卯作、須崎弥惣、山中永三。
 寄附人名
 金四〇円 山中利雄、金二四円 平川久四郎、金十八円 津田キサ、

金十五円 山中与七、金十四円 山中金作、沢田与一郎、金十円 白取
 弥作、津田与八、山中永吉、金八円 黒川長吾、金七円 山中源太郎、
 齊藤兼雄、金六円 今卯作、須崎弥惣、沢田長四郎、金五円 今瀧五郎、
 小山内繁雄、山中弥八、小松藤之、山中伊太郎、小山内繁四郎、須崎永
 吉、金四円 黒川勇吉、鳴海ナミ、金二円 山中勝一。
 後町前町一同。

⑪ 武運長久祈願碑石塔

裏面 鍛冶町々内一同 昭和十四年己卯年旧一月元旦 土岐石人書
 発起人 鎌田稻辰、吉崎年一、須崎由次郎、木村治一郎、小松常五郎、
 山中慶一、須崎弥五郎、平川久男、沢田沢吉、木村勇助。
 献納者氏名 金拾円 木立間五郎、山中亀一、金八円 五拾銭 須崎由
 次郎、小松常五郎、金八円 齊藤重五郎、金六円 山中慶一、齊藤直、
 平川久男、金五円 小松才助、原田長作、木下與七、須崎弥五郎、木下
 千代吉、原田男茶、今喜代作、鎌田稻辰、工藤豊八、金四円 原田宇三
 郎、野宮金助、吉崎新八郎、沢田万次郎、平井繁太郎、木村治一郎、木
 下亀太郎、金三円 木村秀吉、沢田沢吉、木村勇助、山中要吉、吉崎丸
 市、津田孫市、鎌田辰三郎、鳴海定雄、神多作、吉崎長一郎、原田武雄、
 今兵四郎。

⑫ 神路舗装記念標石塔

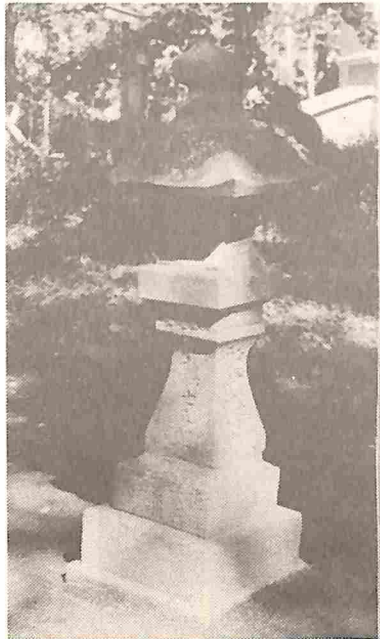
献進人 加藤七五郎
 後援者 齊藤亀吉、齊藤善太郎、平川久四郎、小山内キヨ、平川由次
 郎、山中与七、阿部重太郎、黒川長次郎、沢田與三郎、神島友作、齊藤

重五郎。



⑬ 石造物献燈四基

二千六百年
 昭和拾七年六
 月十五日
 奉納



加藤七五郎、
 齊藤重五郎

⑭ 大東亜戦争必勝祈念碑

神社参道左側庚神塚堂内
 裏面
 齊藤重五郎兄弟一同除隊
 記念 齊藤重清
 入営記念 齊藤重光、
 齊藤正美、齊藤実。

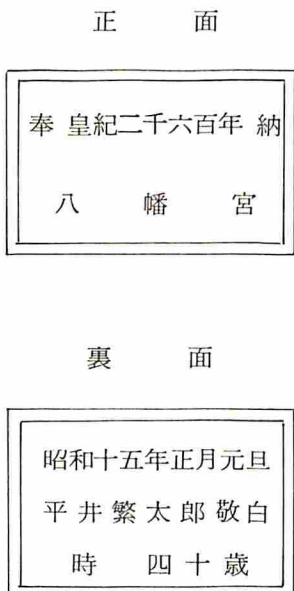


紀元二千六百年 昭和十八年三月二十五日
 世話人

齊藤亀吉、沢田与三郎、土岐辰三郎、内海市太郎、野呂喜五郎、平川
 由次郎、櫛引藤吉郎、鳴海勝太郎、今要之助、对馬治太郎、原田辰五郎
 高杉宇八郎、平川久四郎、鳴海要吉、鳴海大吉。
 家族一同 齊藤キサ、堤きぬこ、齊藤てき、齊藤フコ。

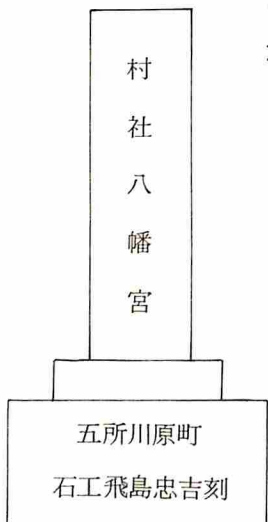
⑮ 石額

神社参道左側庚神塚堂内



⑯ 村社八幡宮銘塔

裏面 大正二年旧五月
 十五日
 沢田嘉吉
 四十二歳記念建立



⑬ 鳥居改修碑塔

裏面 昭和四拾貳年七月吉日

さわだ書

奉納
鳥居改修一部資金
一金拾萬円也
嘉瀬出身 湯本正美

⑭ 敬神碑



裏面

北郡嘉瀬村 一金七五円

加藤七五郎
原田耕造

一金六〇円 今 清太郎
一金五〇円 中村弥之助
一金拾五円 山中石松

一金拾五円 齊藤吉五郎

北郡嘉瀬村 一金六〇円木立間五郎、一金二五円平川久四郎、山中与七、
一金四〇円阿部重太郎、一金二〇円神島友作、黒川常興、一金一七円小
山内キヨ、一金三五円平山由雄、阿部重蔵、齊藤亀七、一金三〇円齊藤
正美、一金四五円沢田勇、鳴海勝雄、土岐武男、中村正道、津田与三郎、
平川由次郎、齊藤亀七、中村正一、鳴海勝太郎、土岐辰三郎。
會計 齊藤重五郎 土岐石人書

⑮ (その他) 木造燈籠

昭和三十四年旧正 元旦奉納 棟梁 榎引繁由

燈籠建立発起人

二千円 吉崎萬次郎、千五百円 榎引征衛、千円 黒川粕太郎、浜田
君春、鳴海惣五郎、八百円 吉崎勇四郎、浜田常五郎、榎引藤之助、加
藤賢治、山中文雄、齊藤伝太、浜田誠治、相馬江津雄、木村金利、鳴海
久雄、原田万之八、三上兼五郎、浜田由雄、野呂きわ、蛸島茂作、平川
信長、神島岩夫、内海勘作、沢田竹次郎、白川政由、岩村衆太郎、工藤
清治、阿部重蔵、工藤辰太郎、榎引米五郎、榎引繁松、六百円 廣瀬与
一郎、五百円 花田永助、今嘉七、鎌田善光、四百円 今喜代作、鎌田
孫右エ門、伊丸岡兼保、沢田沢吉、浜田イマ、原田万之七、鎌田武智、
角田千代吉、鳴海正三、工藤弥一郎、山中市太郎、山中長儀、山中哲男、
今安美、古川平内、今根光、今豊五郎、秋村米作、秋元万作、沢田兼八、

沢田松四郎、齊藤亀吉、木立久一、木下清一、三上太郎、
須崎梅太郎、広瀬きゑ、原田平内。

(その他) 安産神木像

鎮座年代

不詳



津軽の田面から消えたもの (1)

水車 (踏車) 嘉瀬では、主に耕地整理地区 (旧十川と飯詰川にはさまれた地域) に多く使用されていた。
耕地整理地区は、大正三年に新規開田区画整理されたもので一区画一反六歩 (約一、〇〇〇㎡) で四十町歩 (水田面積で三八.8㎡) であるが、水源は、清久溜池を水利権とする雲雀野地区からと二ノ沢溜池の水を使う中柏木鎧石地区などの落し水 (排水) を利用した。

飯詰川の堤防付近に集水された排水をサイフォンによって飯詰川の下をくぐり抜け、耕地整理地区の吐出口から幹線水路へ流すのだが、堰の水面よりも田面が高いため水車 (踏車) を踏んで揚水したのである。

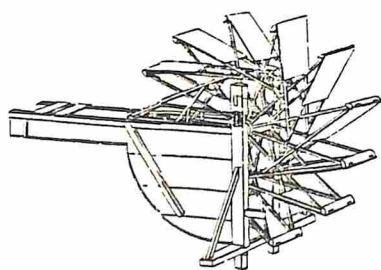
直径五尺 (約一、五m) の水車で揚水すれば、羽根一枚踏むと、水は四ノ五升 (七〇ノ九〇ℓ) ずつ揚る。

耕地整理地区は、嘉瀬の田面の田植えが終って、早いところでは田の草取りが始まってから、除草のため田の水を落すその排水を利用して、荒かき、代かき、田植えと一度に行うのである。

「嘉瀬では、稲つけ馬と苗つけ馬が行き合う」と言われたのも、この地区の田植えが、六月中旬以降に行われ、伸び切った苗は一尺 (三〇cm) ほどにもなり、遅い田植えを指したものである。

一反歩の田に、水が乗る (ゆき渡る) まで水車 (踏車) を踏むには、汗を流して気が遠くなる思いをしたものである。

戦後、昭和二十五年ごろから石油発動機にバースカルポンプを連動させ揚水するようになってからは、水車を踏む労働から解放された。それと同時に、水車 (踏車) も嘉瀬の田面から姿を消した。



昭和六十一年七月二十六日午前十時ごろ、マイクロバスに乗った一行七名は、迷ヶ平高原を通っていた。

ふるさとを探る会々員研修

糠部・鹿角を行く



大湯環状列石

山中正津

一、ピラミッド（十和利山）とキリストの墓

朝七時出発して黒石市を通り平賀町滝の沢展望台で小休止。夏の十和田湖を眼下に展望したが、国立公園という規制が邪魔してか、目の前に広葉樹の枝が目かくししている状態で湖の全景がよく見えなかった。十分間ほど休んで、滝の沢峠を下り、和井内、休屋を経て宇樽部から右に折れ、三戸郡は新郷村へと進んできた。そして今迷ヶ平に至り、左手に十和利山（標高九九〇メートル）を望んだのです。

新郷村は、昭和三十年七月二十日町村合併促進法により戸来村と野沢村の一部（大字西越）が合併した新しい村で、人口約四千五百人、面積一五六・三九^Km²のうち大部分は奥羽山脈に含まれた山地で、三ツ岳（一五九・四メートル）と大駒ヶ岳（一一四四メートル）からなる戸来岳が村の西部にあり、戸来岳の南西に位置するのが十和利山で、十和田カドラの外輪山に当るとされているが、三角錐をなす山で、この山を「津軽古代王国の謎」を書いた、佐藤有文氏は、日本最大の人工ピラミッドではないかと言っている。

今日の探訪旅行コースには、新郷村の「キリストの墓」が入っており、一行は、迷ヶ平を後にして沢口という集落に向った。

キリストの墓は、小高い丘の上にあるが、その登り口の道路側で八戸プリントの沢田孝社長が待っていてくれた。沢田孝氏は、一行のメンバーの一人である沢田薫会員の実弟で、わが「かたりべ」の第二集から印刷を引き受けてくれている人である。

大体予定の待ち合せ時間で落ち合う事ができ、あいさつもそこそこに一行は沢田社長の案内で丘に登った。

ここには、キリストの墓と言われる「十来塚」と、キリストの弟イスキリの墓と呼ばれる「十代墓」の二つが並んでいる。

又、手前（南側）には、沢口家の墓ほか沢口部落の墓所ともなっている。

キリストの墓がこの場所にあると言われるようになったのは昭和十年の事、茨城県磯原町に現存の武内宿禰の末えいである武内巨磨氏が、古史研究家鳥谷幡山氏ほか数名とともにこの村を訪ね、「キリストがこの村に住んでいた」という古文書が、竹内家の文庫から発見されたというのだった。いわゆる茨城県の皇祖皇太神宮に伝えられた磯原文献（竹内文書）のことである。

これによると、キリストは二十一歳から十二年間、日本に渡って修業し、ユダヤに帰ったが、受け入れられず、ローマ兵に捕えられはりつけの刑にされるが、処刑されたのは弟のイスキリで、キリストはその後、日本に再渡来して戸来に居を定め、「十来太郎大天空」と名を改め、ミユ子と称する日本婦人をめとり三女を育てた。

百六歳の長寿を全うして、この村で没したと言われるキリストは、その遺言により、西方およそ一六キロの地にそびえ立つ戸来岳で風葬し、四年後に白骨を埋葬したという。

部落を見下ろす小高い丘の上にあるこんもりと盛り上った二つの塚には、それぞれ十字架が立てられており、向って右側がキリストの墓と言われ、日本名十来太郎大天空と称した事から「十来塚」、左側が、キリストが磔刑を脱する時に携えていた弟イスキリの頭髪と耳を葬った、あるいは聖母マリアを葬ったと言われる「十代墓」である。

キリストの墓のある、沢口家の家紋は、ダビデ（ユダヤの王）の星形であり、それも古い戸ぶくろに、うちつけられているという。また、戸来（ヘライ）はヘブライをもじったものと言われるように、ユダヤに縁のありげな風習や習慣が今なお多く残っている。と資料館には、えじ子人形や風俗など展示した説明文が掲げられている。

しかし、この記録は真実性がなく、塚は中世の豪族のものと考えられている。

現在は、観光的な意味から村の年中行事として、毎年六月十日に「キリスト祭」がこの塚の前で行われ、村に古くから伝わる盆踊り唄、

「ナニヤドヤラー
ナニヤドナサレノ
ナニヤドヤラー」

の唄声で踊り、有名になっている。

二、櫛引八幡宮

キリストの墓を見学した後、沢田プリント社長とコースの打ち合せをし、八戸市内は沢田社長に案内を頼む事にした。先ず八戸での最初の探訪は櫛引八幡宮から行なうことになった。